

古着伝言板

2002年9月13日

ファイバーリサイクル・ネットワーク

〒232-0017 横浜市南区宿町2-40 大和ビル101

Tel: 045-710-6507 Fax: 710-6508

<http://jimfiber.hoops.livedoor.com/> <mailto:jimfiber@livedoor.com>

事務所オープン: 月～金 11:00～16:00



FRN

ファイバーリサイクルネットワークが10歳に！！

～ 新しい展開を考える時 ～

服部孝子

* ファイバーリサイクルネットワークの誕生は、忘れもしない大雨の1992年6月20日でした。あれから10年が経ちました。あっという間の10年でした。けれど又、試行錯誤の10年でもありました。10年前、牛乳の紙パックの回収活動はすでに盛んに行われていました。全国ネットで大活躍をしていました。その華やかな「牛乳の紙パック」の回収活動に参加せずに「古布・古着」の回収活動を始めたのです。戸惑いや疑問も続出しました。それらを無事にのり越えられたのは、事務局担当のアリスセンターのお陰であったことは言うまでもありません。

* ファイバーリサイクルネットワークが本来の力を出し始めたのは、事務所を独立させようと考えてからだと思えます。事務所が決まるまで、そして移転してからの企画運営に、本当に喧々囂々、侃侃諤諤（けんけんごうごう、かんかんがくがく）の意見が飛び交う毎日でした。何よりも大切なのは、この事務所はファイバーの「リサイクル」を考え、活動している市民グループであることを肝に銘じておくことです。その理念の実行の手始めとして、事務所内にごみ箱を置かないことにしました。最初は、かなりの抵抗があったように思いました。けれども、今では不承不承かもしれませんが、ごみ箱無しは定着したように思えます。ファイバーリサイクルネットワークは、単に「古布・古着」の回収活動をするだけでなく、トータルに循環型リサイクルシステムを考えるグループでありたいと思えます。

* ファイバーリサイクルも、「リサイクル」だけを考えている時代は終わったことは既にご存知のとうりです。以前から私たちは「リサイクル」の他に「国内リユース」を考えた活動をしてきました。その最も大きいのが「リサイクルきものフェア」です。これはかなりの成功を収めました。しかし、これにも限界はあります。私たちは新しい企画に挑戦しなければならないでしょう。そのための知恵と力を出し合う時がきています。良い知恵と力を持ち寄って11年目に向かって希望にあふれた歩みを始めましょう。

FRN10周年記念事業実行委員 佐野泰子

FRN10周年記念事業の第一弾として、かながわ県民センター2Fホールで“シンポジウム”を行いました。このシンポジウムの目玉は何と言っても、「繊維リサイクルに対する国の考え方」を経済産業省の方から直接に聞けることで、平日の昼間という人集めには難しい時間帯にもかかわらず、120名の参加がありました。行政の参加も神奈川県（5名）をはじめとして、横浜市環境事務局から7名（磯子事務所、戸塚事務所を含む）、戸塚区役所、川崎市中原区役所など、14名もあったことは特筆すべきことです。

〔第一部〕は経済産業省製造産業局繊維課の山田剛士氏による記念講演「日本の繊維製品リサイクルの方向性」。目指すべき循環型社会に向けて、国は繊維リサイクルに対してどのような施策を考えているのかを伺いました。これまでも言われ続けているように、繊維製品の持つ素材の複雑さ、消費者の繊維製品に対する要求の多様性により、なかなか難しいものがある、ということを改めて感じました。「国としても、さまざまな施策を考えてはいるものの“これだ!”という決定打がない。」という言葉が印象に残りました。

（それでも、もしかしたら明るい材料があるかもしれないと、心のどこかで密かに期待していただけに、残念…）

〔第二部〕は「これからのファイバーリサイクル」と題するパネルディスカッション。パネラーは、山田剛士氏（経済産業省）、山本耕平氏（ダイナックス都市環境研究所所長）中野聰恭氏（ナカノ株式会社社長）、それに市民代表としてFRNから副代表の赤岡清子さん（回収担当）と志沢希久子さん（再生活用担当）が参加して、コーディネートを嶋田昌子さんにお願しました。まず、赤岡さんと志沢さんがそれぞれの立場から、10年間の私たちの活動について報告。山本氏がドイツの事例を紹介し、それなら日本ではどうするのがよいのか？ やはりなかなか難しい…。

〔第三部〕交流会では参加された方たちが、お茶菓子をいただきながら思い出話に花を咲かせ、これからの活動について語りました。会場の後ろには、これまでのFRNの活動を紹介しますパネルや写真も用意して、大勢の方に見て頂くことができました。

これから先のFRNの活動が前途多難であり、決して“バラ色”ではないことを皆さん感じ取られたとは思いますが、市民のアイデアとパワーを再生活用の分野で活かしながら、新しい発想と私たちのチームワークの良さで活動を広げて、さらに10年後に「私たち、よくやってきたよね…」と言えるように、みんなで力を合わせて頑張りましょう！

朝日新聞 (日刊) 41821号 (日刊) 木曜日 2002年(平成14年)8月29日 (夕刊) 新聞 朝日新聞



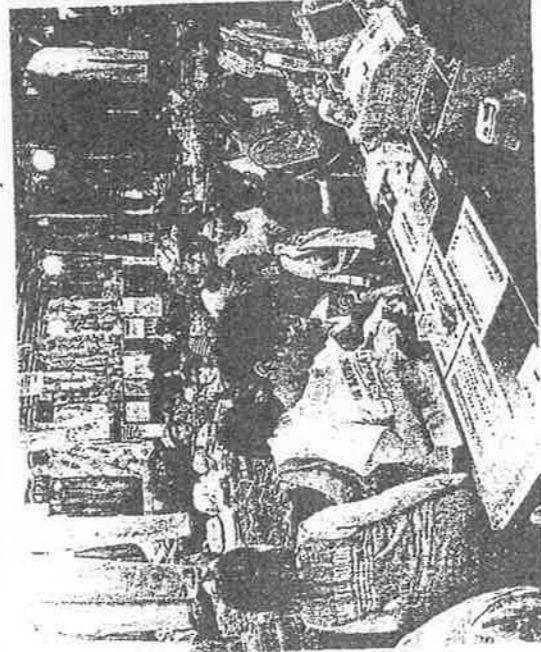
〒104-8011 東京都中央区築地5丁目3番2号 発行所 朝日新聞東京本社 電話 03-3545-0131 ©朝日新聞東京本社 2002

なんと1面トップ!!

古着、若者人気で仕入れに四苦八苦

安定供給へ協同組合

来月設立総会
若者は東京・原宿など、都心の古着店を専門とする原宿シカゴなど、東京も関西も国内の古着を扱う専門業者4社。組合は経済産業省に認可され、8月中旬にも設立総会を開く。古着業者は全国で1千社〜2千社あり、年産約100社の加入を目指している。独自の風合いで値段も安い古着は、この10年で若者のファッションとして



若者でにぎわう古着店「原宿シカゴ」＝東京・原宿の竹下通りで

と定着。1品物として、流行に敏感な若者の心をとらえている。不況で財布のひもが固くなり、安い値段でも服を扱う古着店や、インターネットの売り上げも年々伸びている。

業界の推定では、01年度の古着の市場規模は1千億円。5年前の約700億円と比べて4割伸びたという。

原宿シカゴでは、人気のジーンズが300円から500円、シャツも500円。平日夕方週末のしびれは行列ができ、1日で1日平均1千近くが売れるという。

だが、仕入れ量の確保はこの古着店も一善の例みだ。原宿シカゴ専務取締役の飯塚繁。組合理事長は「品薄になつても古

着を作るには行かない。必要な商品が売れるのだが、古着店は業者が多く、個々に仕入れ量を増やすのは難しいのが現状。

経済産業省によると、自治体などの買取りなどを進めて集められる衣料品は年間約10万トン(99年度推計)。このうち国内で古着として売れるのは0.2%の2千トンに過ぎない。

組合では、今の5倍から5倍の衣料品が古着として再販可能とみている。自治体から古着を引き取る故繊維業者に対して組合の共同購入などを持ちかけて、衣料品のリサイクルを進めたいという。

組合では、今の5倍から5倍の衣料品が古着として再販可能とみている。自治体から古着を引き取る故繊維業者に対して組合の共同購入などを持ちかけて、衣料品のリサイクルを進めたいという。

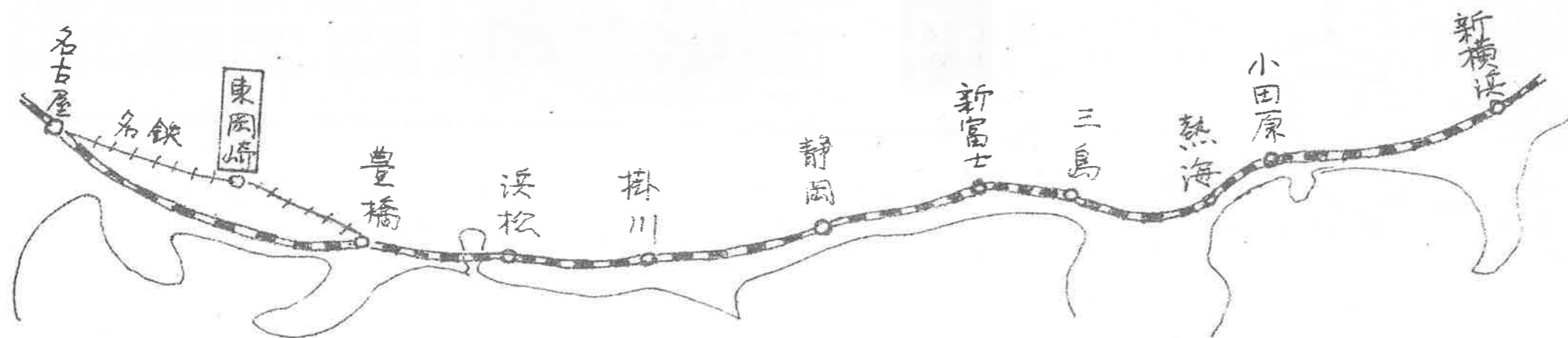
仕掛け人はやっぱりあの中野さん！ 6/24のシンポジウムの成果がこんな形に。

FRN10周年記念研修旅行 in 岡崎

新横浜 7:53発 (東海道新幹線こだま号)
 (小田原 8:14発)
 豊橋 9:53着 10:02発 (名鉄 名古屋本線)
 東岡崎 10:21着

- 見学先
- ・河東反毛 (色物反毛) (昼食)
 - ・鈴六 (古着選別)
 - ・清水フェルト (フェルト工場)
 - ・フジ紡績 (紡績工場)
 - ・岡崎繊維センター

東岡崎 16:53発
 豊橋 17:18着 17:26発
 新横浜 19:29着



《 10周年記念研修旅行 》

FRN10周年記念事業実行委員 根本隆子

7月3日(水)ジリジリと暑い日に、FRN設立10周年ということで、4年ぶりに岡崎研修旅行に行って来ました。(株)鈴六(選別業者)の社長さんが、岡崎での研修コースからバスや昼食場所の手配を引き受けてくださり、さらに現地でのガイド役もしてくださいました。

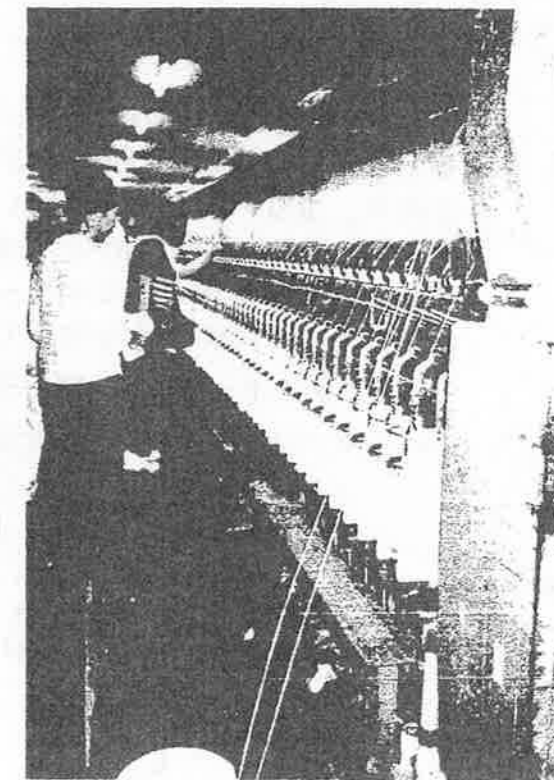
反毛工場から繊維センターまで5カ所を見学しました。限られた時間でしたが、皆さんとても熱心に質問したり見学することができました。中でも、フェルト工場で“環境に優しい”と言われているケナフを反毛してフェルトが作られていたことや、軍手の工場では古い布ではなく繊維工場から出る裁ち落としのバージン布で作られた白い軍手だったり、注文によってカラフルな軍手を作っていることなど、前回とはまた違った勉強をすることができました。

今回は、現地集合、現地解散の日帰り研修でしたが、19名の参加がありました。

[清水フェルト]



[フジ紡績]



《再生活用イベント報告》

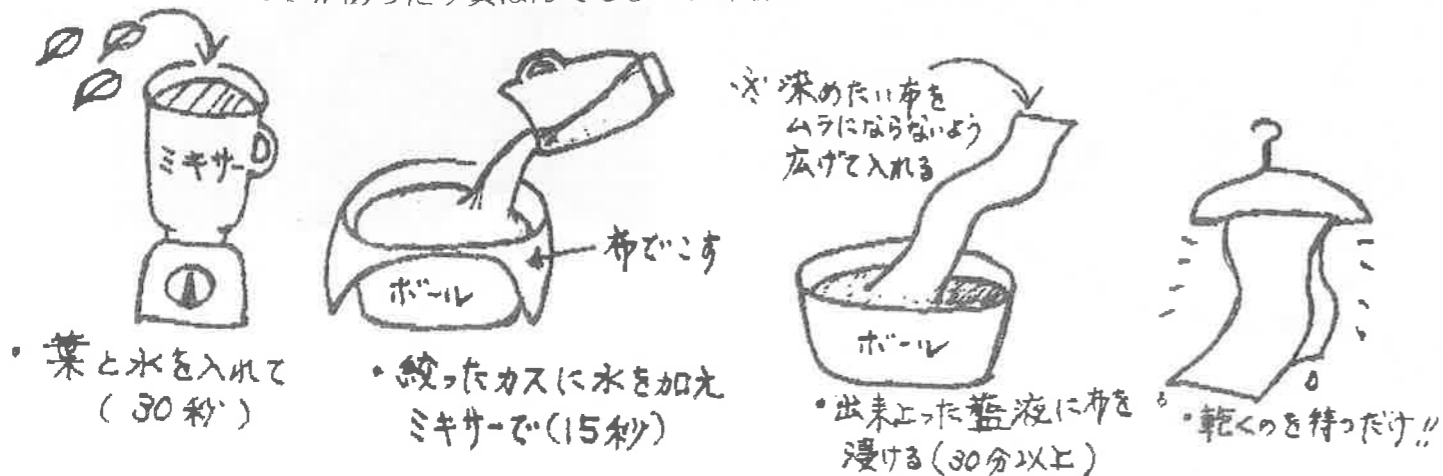
- 5/16 (木) 「和布の手作り講習会&皐月フェア」
講師： 菊地原祐子さん
内容： 午前の部 髪留め、髪飾り
午後の部 バラの針刺し、梅の針刺し [参加 19名]
 - 6/19 (水) 「和布の手作り講習会&あじさいフェア」
講師： 島田愛子さん
内容： 午前の部 トンボのブローチ
午後の部 飾り紐のブローチ [参加 18名]
 - 7/24 (水) 「親子さき布ぞうり講習会&ほおずきフェア」
講師： 黒柳市枝さん、横山啓子さん、長田みち子さん [参加 16名]
- ※この日は、「横浜市市民活動センター」の“夏！市民活動体験塾”から学生ボランティアの参加がありました。午前中はフェアのお手伝い、午後はさき布ぞうり講習会に参加。また、8/23のナカノ工場での仕分け作業にも参加して、作業を体験してもらいました。
- 8/8 (木) 「藍の生葉染め講習会&あさがおフェア」
講師： 馬場亜紀子さん、鈴木芳子さん、長池郁子さん [参加 7名]

[藍の生葉染め] 手順

※あらかじめ染めたい布（絹が良く染まる）を80~90°のお湯で洗っておく。

- ①汚れ、虫食いのある葉は除いて、藍の葉を茎からはずす。
- ②乾いた染めたい布の重さと同量以上の葉を用意する。
- ③藍の葉に水を加えてミキサーにかける。(30秒)
- ④絞ったカスにまた水を加えて、もう一度ミキサーにかける。(15秒)
- ⑤こした液をボールに移し堅く絞った布を広げムラにならないよう素早く浸す。(30分以上)
- ⑥ハンガーなどに掛けて乾かせば、できあがり。

シミがあったり黄ばんでしまった半襟がステキな藍色のスカーフに！



《秋のきものフェア実行委員 学習会》

7/27 (土)

秋のきものフェア実行委員 黒柳市枝

気温35°C以上の7月27日、「秋のきものフェア実行委員学習会」に参加。東京は目黒駅集合。電車を利用し慣れていない私（黒柳）は遅刻。山田さんが駅で待つこと40分。おかげで私は迷子にならずに、ステーションビル内にある「たんす屋」で無事に皆さんと合流できホッとします。

すでに店内では、この日参加の志沢、鈴木、小牧、井上さんたちは、商品を見ながら質問。店員さんの豊富な知識に密かに学習。抗菌、防臭、クリーニング済みのきものなので、とてもキレイ。

次の「池田」は戸を開けた時に、FRN事務所と同じ臭い（古着そのまま）。きもの、帯、端布など品目は多く、店内の陳列もよく、きものは袖たたみで見やすい。（事務所の棚の物は早速実行）端布の色彩別にした並べ方は見事！とても購買意欲をそそられ、つい買ってしまう。

「ギャラリー川野」「オリエンタルバザー」「ぎゅらりい朱」「青」と廻り終了。今後のきものフェアに向けて参考になることも多く、学習会はまた続けたいと思う。

最後に、この学習会を企画し当日の案内をしてくださった山田さん、ありがとうございました。

《これからのイベント紹介》

- 10/12 (土)~13 (日) 「リサイクルフェスタよこはま2002」
内容： 軍手編み機実演とパネル展示、フリーマーケット
会場： パシフィコよこはま展示ホール（桜木町駅より徒歩15分）
時間： 10:30~16:00
- 10/20 (日) 「フォーラムまつり」（戸塚地区連が中心になって参加）
内容： フリーマーケット（ジーンズ、子ども服、毛糸など）
会場： よこはま女性フォーラム（戸塚駅より徒歩10分）
時間： 9:30~16:00

[初めてのリメイクの企画です!]

- 11/21 (木) 「和服のリメイク講習会&もみじフェア」
内容： ウールの着物からエプロンドレスを作ります（初心者向）
講師： 渡部かずえさん
時間： 13:30~15:30
会場： FRN事務所
- 12/11 (水) 「和服のリメイク講習会&さざんかフェア」
内容： ウールの着物から巻スカートを作ります（初心者向）
講師： 大木麗子さん
時間： 13:30~15:30
会場： FRN事務所

※どちらも申し込み受付は11/1(金)からです。FRN事務所へ電話で申し込んでください。（祝日を除く月曜日~金曜日、11:00~17:00）

10/31 (木) 「秋のリサイクルきものフェア」

テーマ：“ウールのきものがステキに変身！”

会場：かながわ県民センター 1F 展示室（横浜駅より徒歩5分）

時間：10:00～16:00

エコバックコンテスト締め切り迫る！ 9/30 (月) 締め切り

あなたのアイデアで、ジーンズの裁ち落としバックをステキなオリジナル・マイバックに！

応募方法：写真（サービス判）（写真はお返ししません。ご了承ください。）

写真の裏面に郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入

発表：秋のリサイクルきものフェア会場で行います。

尚、入選作品については、来年2/25～3/3にフォーラムよこはま（ランドマーク13F）にて展示する予定です。

賞品：FRNオリジナル作品（リテックス製品など）

FRNの事務所がある大和ビルには、NPOの団体が多く入居しています。
福祉、町づくり、教育、等様々 その中でこんな交流もあります。

アゲハチョウで交流

竹内幸代

毎年初夏から初秋にかけて このビルの谷間のわずかな緑に小さないのちが育つ。
ボランティアの方が持ち込んだミカンの苗木に アゲハが産卵にやって来るのです。
今まで害虫にしか見えなかった青虫。でもよく見ると何ともユーモラス。
この夏も見守ってあげようと オーナーさんを始め他団体の皆で大切に育てた。
おかげでミカンの木はいつも丸坊主。葉っぱが少なくなると里親に預ける。
気が付くとFRNの鉢植えがお隣のシャッター前（NPOたすけあい「ゆい」さん）に移動していた。そしていつの間にか もう一鉢苗木が持ち込まれていた。
毎年 これはもう大和ビル中庭の夏の風物詩になっている。
我が家でも 12匹のさなぎが無事羽化して旅立ちました。
古い物を大切に自然を愛している大和ビルの方々です。
FRNの事務所の夏は アスファルトを這う風と扇風機という厳しい環境ですが
3度目の夏も無事終わろうとしています。